

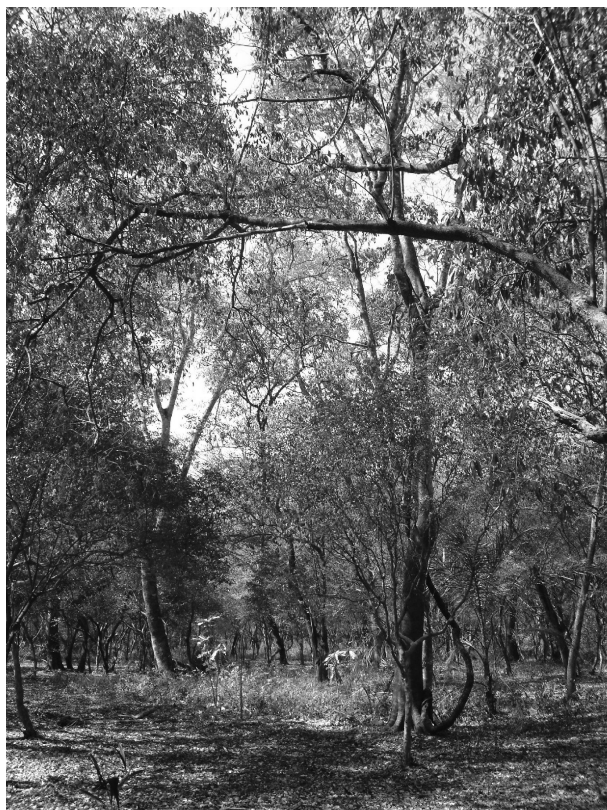
眼で見る世界の森林 (13)



アンデス山麓の半落葉林 (Semi-deciduous Forest at the Foot of Andes Mountains)

南米の中央部に位置するボリビアは、海拔高約200mの低地から6,000mの高山までと多彩な土地が分布している。実質的な首都となっているラパスが3,800m付近にあるため、国土のほとんどが高山帯に属するように思われるが、実際は海拔高305m以下の土地が国土の約41%、305mから610mの範囲にあたる土地が約21%となっており、これらの土地で農業生産を行っている。もっとも、Altiplanoと呼ばれる高山帯に該当する3,658mから4,511mの地域は16.4%を占めることから、高海拔地が少ないわけではない。「Geografía y Recursos Naturales de Bolivia (ボビリアの地理と天然資源)」(1997)によれば、ボリビアの主な森林は高地常緑林 (2,620 km²)、中間地常緑林 (65,740 km²)、中間地半常緑林 (18,873 km²)、中間地落葉林 (25,071 km²)、低地常緑林 (243,412 km²)、低地半常緑林 (100,274 km²)、低地落葉林 (97,117 km²) の7タイプである。このほかに、低木林や特殊な立地に成立する森林があるが面積はそれほど大きくない。

ボリビア第2の都市であるサンタクルツは南緯17度47分、海拔高437mに位置し、農業生産地帯の中心となっている。年平均降水量は1,244 mmで、



植物園に保存されている半落葉林 2003 Aug

それほど多くはない。郊外には植物園があり、半落葉林 (Bosque semideciduo) が保存されている。「Guía de árboles de Bolivia (ボリビアの樹木ガイド)」(1993)に掲げられている Bosque semideciduo Chiquitano (チキターノ半落葉樹林) にあたる森林であろう。一般にはチキターノ林 (チキターノ乾燥林 Chiquitano dry forest) と呼ばれる熱帯乾燥林の一種でボリビアを中心に一部ブラジルに広がる。海拔高300mから1,200m、3から5ヶ月の乾期を持ち、年降水量1,000から1,500mmの範囲に分布する。ムラサキ科の *Cordia*、シクンシ科の *Terminalia*、ウルシ科の *Astronium* と *Schinopsis*、マメ科の *Anadenanthera* と *Machaerium*、ノウゼンカズラ科の *Tabebuia*、ニレ科の *Phyllostylon*、

キョウチクトウ科の *Aspidosperma*、パンヤ科の *Chorisia* などの属によって構成されており、サボテン科の *Cereus* なども加わっている。群落高は15mから20mで、樹高25mに達する挺出木が混じる。厳密にはこの保存林は原生林ではなく二次林だがインベントリーの結果、100樹種近くがリストアップされている。

斉藤昌宏 (森林総合研究所 REDD 研究開発センター)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は88号30頁を参照ください。